令和３(2021)年度 基盤研究（Ｓ）審査結果の所見

研究課題名	半定住狩猟採集民の社会組織と葬制：骨考古学先端技術との連携による先史社会の復元
研究代表者	谷口　康浩 (國學院大學・文学部・教授) ※令和３(2021)年７月末現在
研究期間	令和３(2021)年度～令和７(2025)年度
科学研究費委員会審査･評価第二部会における所見	【課題の概要】 本研究は、縄文時代早期にあたる居家以岩陰遺跡より出土した人骨、考古遺物、動植物遺存体を対象に自然科学を含む多角的な分析によって、血縁関係と社会構成(性別・年齢)、生活史と健康状態、資源利用と生業活動、葬制などを復元し、縄文文化の基礎を築いた社会の様相に迫ることを目指している。 【学術的意義、期待される研究成果等】 これまで、縄文時代の人骨を用いた研究は、縄文中期以降がほとんどであり、早期を対象にした研究は僅かである。本研究により、未解明な部分が多い縄文時代の初期における社会の復元が可能になり、縄文文化の成立過程を検証、再考することにつながると期待される。 また、世界的にみても、完新世初期の社会変化は、学術的関心の高まりがあるものの、未だに考古学的証拠の提示は乏しく、人類史の解明を推進する上でも本研究の重要性は高い。